

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

宮崎県 五ヶ瀬町

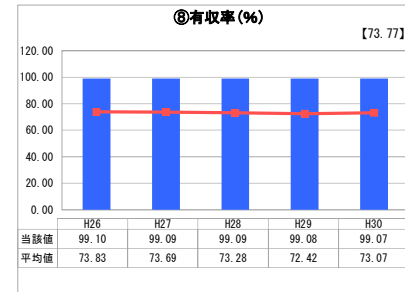
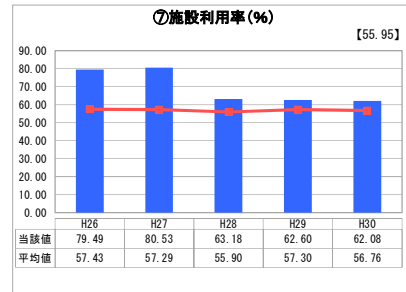
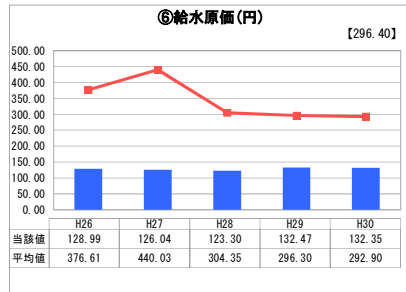
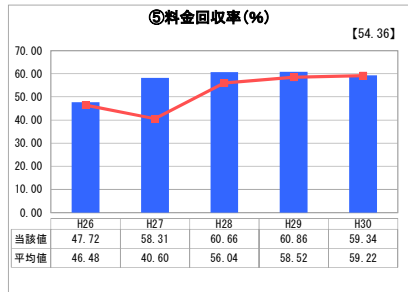
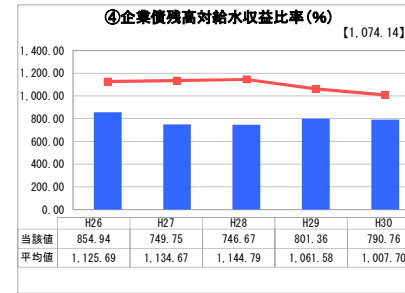
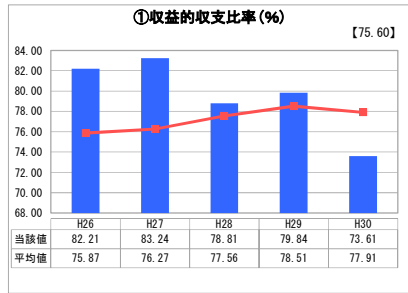
業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	71.30	2,160	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
3,901	171.73	22.72
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,686	9.84	272.97

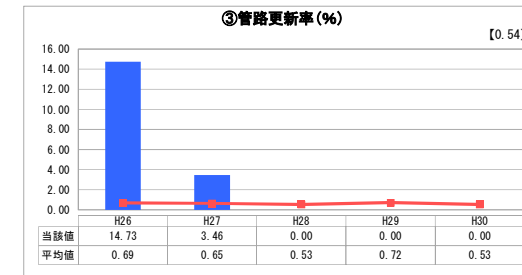
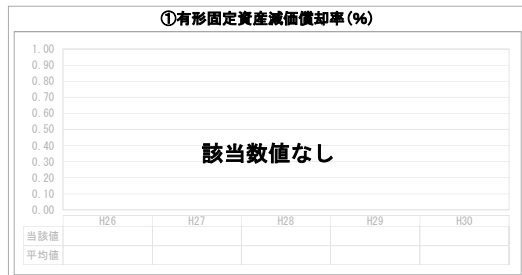
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

本町簡易水道事業は一般会計・地方債の補填によって賄われている現状にある。収益的収支比率・料金回収率共に昨年度より下がっており、収益的収支比率については全国平均も下回っており、依然として水準は低い。

企業債残高対給水収益比率・料金回収率から見て、いずれも平均値に比べ比較的良好であるが、今後の施設更新、人口減少に伴う料金収入の低下及び区域拡張に伴う整備費の増加を鑑みれば、今後、給水原価が上昇すると予想される。

一方、施設利用率・有収率共に平均を上回っており、稼働率は良好であると判断される。しかしながら急峻な地形の当該地域特性を考慮すると広域連携や施設の統廃合等はハードルが高く、経営改善への第一歩として料金水準の見直しが望ましいと考える。

### 2. 老朽化の状況について

管路は比較的新しく、最も古いもので敷設後20年程度である。平成26年度の更新は、新たに追加した地区の既設管利用区域であり、同地区は平成31年度にも更新を行っている。

今後、長期的には管路の更新時期を迎える地区が重複してくることから、漏水の状況等、優先順位を策定しつつ計画的な更新を行う。

### 全体総括

水道普及率7割程度の本町においては、今後も繰入金や起債に依存する経営状況が続くことが予想される。しかしながら人口増加が見込めない中では、特別会計さらには一般会計の財政圧迫が必至となる。財政負担の軽減を図るには水道料金水準を見直し、計画的な引上げ等を検討する必要がある。

また、経営戦略については平成32年度までに策定を行う予定である。